掲載日:2023年04月28日，面名:三社，記事ID:KIJ20230428_A0025000100733001
(C)沖縄タイムス社

新聞未掲載15人を追加

「沖縄の生活史」

100人の人生 沖縄感じて

みすず書房 片桐さんに聞く

「壮大なプロジェクト」「自分重ね内省」

沖縄の生活史

～語り、聞く 復帰50年

５月12日刊行の「沖縄の生活史」について語るみすず書房の片桐幹夫取締役営業部長＝浦添市内

5月12日刊行が決まった「沖縄の生活史」（みすず書房、沖縄タイムス編、石原昌家・岸政彦監修）は、「聞き手」100人が両親や祖父母、親戚、友人らから「語り手」を選び、生活史（生い立ちと人生の語り）を聞いた。4月から京都大教授となった岸さんは「これまでに類を見ない壮大なプロジェクト」、沖縄国際大名誉教授の石原さんは「他人の人生を自分の生活体験と重ね合わせ、共感したり、学んだり、自然に内省する機会にもなる」と評価した。プロモーションで沖縄を訪れた「みすず書房」の片桐幹夫取締役営業部長に本の魅力などを聞いた。

（聞き手＝政経部・福元大輔）＝1面参照

―いよいよ5月12日に刊行される。

「沖縄の日本復帰50年企画を復帰51年目の5月に刊行することができる。沖縄タイムスで連載している頃から、本はいつ出版されるか、と問い合わせがあったと聞いている。新聞に掲載した85人の語りに、新たに15人の語りが加わる。『待望の書籍化』と宣伝している」

―どのような魅力がある本か。

「生活史を聞き取るという改まった枠組みがあることで、聞き手は聞き出そうと、語り手はここでなら話そうと、互いに意を決したように感じる。身近な人にも語っていなかった出来事や思いをこの機会に語った人がたくさんいる。断片とはいえ、100人分のオーラルヒストリー（口述記録）が詰め込まれた本はめったにない。読み進めるうちに、貴重な出会いがあると思う」

「1万字で人生を語り尽くすことはできないだろうが、住む場所も、時代背景もさまざまな人たちが、記憶に残ること、印象深いことを語っている。さらっと飛ばすところ、具体的に取り上げるところなど、一つ一つに面白さがある」

―880ページに及ぶ。どう読めばいいか。

「880ページで、定価が4950円（税込み）。読書慣れした人しか手に取らないような分量かもしれない。でも、100人分の語りを一気に読むことも、順番に読むことも必要ない。気になるところから読めばいいし、1日に1人と決めて、じっくり読むのも面白い。今日はどんな人だろう、明日はどんな人だろうとワクワクしながら100日楽しめる」

「県外の観光客にも読んでもらいたい。沖縄が大好きな人が、日常に戻って生活する時、この本を読むことで自宅にいながら沖縄を感じられる、旅行した気分になれる。そんな魅力も大きいと思う」

―書店を回った反応は。

「事前に見本を送っていたので、会った瞬間に『僕は買います』『次から次に読みたくなる』と感想を教えてくれる担当者もいた。うれしかった」